



おだのぶなが むろまちばくふ 織田信長は、なぜ室町幕府をほろぼしたの



自分をたおそうとたくらんだ足利義昭を追放したことが、室町幕府をほろぼしたことになるんだよ。

信長にとって、義昭はただのかざりだった

当時の京都は、日本の中心だったので、天下を統一するには、京都を支配することが、ひじょうに大切なことでした。信長にとっても、大切なのは京都であって、肩書きはえらいが、実力をもっていない足利義昭に頭を下げる気持ちは、まったくなかったようです。そのため、京都に入ってから、義昭を将軍としてかざっておくだけで、政治からしめ出しました。

義昭は、信長をたおそうとたくらんだ

義昭は、何の力ももっていませんでしたので、信長のほかにも有力な大名を集め、おたがいをけんせいさせて、力のバランスをとり、自分がその上に乗っかろう、と考えたようです。その目的で、諸大名に手紙を送ったりしましたが、信長から止められました。そこで義昭は、諸大名や仏教勢力（延暦寺・本願寺など）を連合させて、信長包囲網をつくり、信長をたおそうとしました。正面から戦わず、裏でたくらみ事をする義昭は、信長にとって、やっかいな人物になりました。

義昭を追放したことが、室町幕府の滅亡とされた

1572年12月、京都へ進軍する武田信玄が、三方ヶ原で徳川・織田連合軍を破りました。これを伝え聞いた義昭は、翌年3月に、京都で兵をあげました。これが失敗すると、7月にまた、宇治の槇島城で兵をあげました。信長は城を落とし、2歳の子を人質に取って、義昭を追放しました。義昭は、朝廷によって将軍をやめさせられたわけではないのですが、世間の人々は、幕府がほろびた、と思ったようです。今でも、この追放が、事実上の室町幕府の滅亡とされています。